

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス事業所 オタマじゃくし		2025年 3月 31日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用児童の関係性や年齢を鑑みたく上で必要に応じて模様替えを行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法定配置数よりも多めに設定し、従業員が欠席したとしても基準を満たす余裕が持てるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		常に子供に分かりやすい環境を心掛けて席替えやレイアウト変更をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日当番制で清掃を行い、清潔な環境を整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子供が希望すれば利用できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に職員会議を設け、児童の現状を中心に振り返り、イベントや支援方針等の計画や振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の内容を受けつつ、支援を見直している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月に一回ミーティングを設け話し合いをしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要に応じて第三者による外部評価も求めていると検討している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修の他、外部研修についての情報提供も行っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		現在、ホームページで公開できるように手続き中である。3月31日までに公開予定となっている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		本人や保護者と対面で相談し合った上で、最終的な決定を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		そばでよく遊ぶ支援員達とも毎月の職員会議で情報共有を行い、更に直近の状況についても話を伺った上で作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		共有されている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールを利用して面談を行い、本人の特性を把握するようにしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各項目に応じた具体的な支援内容を考えた上で、保護者に周知している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児発管と児童指導員で支援内容を立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化されないように月に一度のスタッフミーティングで何う様子を鑑みながら、適宜内容について考えている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		各々のこどものやりたい事を聞き取り、その意欲に添って活動を計画し、成立させている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		児童を迎え入れる前にスタッフで日常的に話し合い、その日の受け入れ態勢について確認をした上で臨んでいる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎後にその日の業務を振り返りながら共有し合った上で記録している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務日誌や個別記録などを利用して日々の支援の記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度の定期的なモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		支援計画書を作る際に参考にして作成している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		好きな食べ物、好きなゲーム、遊びたいもの等、まずは好きな物から決める事が出来るように意識してスタッフが声掛けをしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管と児童指導員が二人で参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関を設けている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時に学校の先生にお会いした際は、生徒の状況を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			最小の年齢が小学校四年生であることもあり、現在、保育所等に情報共有を求めた事はない。必要に応じて検討したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			移行先に必要な場合は、個人情報保護の範囲内において協力体制を取っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			現在スーパーバイズの研修は受けていない。今後、機会があれば申し込みを検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			現在、放課後児童クラブや児童館と交流する機会はない。希望に応じて計画したいと考えている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		自立支援委員会に所属し、協議委員として二年間活動している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時等に子供の状況や発達課題について伝えあったり、連絡帳にて伝えあったりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援はそれぞれの個別事例で対応している。複数の家庭が参加するような場は設けていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時に重要事項説明書や利用契約書を利用しつつ説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的に面談を保護者に提案し、事業所内や家庭訪問等を行って確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		モニタリング時や利用開始前等に説明を行い、同意を貰っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		モニタリング以外にも送迎時や保護者の申し出に応じて面談や助言を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		児童施設という特色を思えば必要であると認識はしているが、保護者は働いている事も多く、効果的な活動が現実的に望めない為、実施には至っていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決担当者や責任者を設け、迅速な対応を心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		隔月ごとに通信を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障害特性に配慮した関りをスタッフ全体に促している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		現在、積極的な招待は行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年度に二度の避難訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年度に二度の避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		見学やインテーク時に伺っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食物アレルギーの児童がいないものの、居た場合に対応が出来るようにと考え、インテーク時に必ず伺っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的な車両点検や室内設備環境の確認を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書をなるべく事業全体で作れるように協力を呼び掛けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止についての内部研修を職員会議中に行ったり、外部研修を受けられるように申し込んだりしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		利用開始前に保護者に説明を行ってはいるが、計画書ではなく重要事項説明書に明記している状態なので、今後審議していきたい	